

# 知恵の環館

— 絵画コレクション ①



「昭和二十三年四月、青木繁建碑除幕式に参列して。  
筑紫なるケシケシ山に碑も建てて手向けの笛や父をよぶらん」  
ケシケシ山の思出  
たね子

昭和23年4月25日、福岡県山本村（現在の久留米市）兜山（通称 けしけし山）に青木繁の記念碑が建立された。青木は、生前、姉の鶴代などにあてた手紙の中で「骨灰は序の節、高良山の奥のケシケシ山の松樹の根に埋めて下されたく」と依頼をしており、故郷の山か

ら筑紫平野を眺めて、自らの霊を慰めてくれるように懇願した。福田たね子として、青木の一子である福田蘭童もこの除幕式に参列し、蘭童は碑の前で笛（尺八と思われる）を演奏した。この画は、その様子を描いたものである。

明治18年1月25日、芳

賀町郷土の女流画家、福田たねは、東高橋村の教育者福田豊吉の長女として生まれた。16歳ごろ、日光の五百城文哉の画塾に入門し本格的に絵を習い始める。その後、学校教科書にも登場する「海の幸」などを描いた明治の天才画家青木繁の恋人として、その青春時代を送った。今や青木の画、人間像、そして恋愛が語られる時、福田たねの存在は欠かせないものとなっている。

今年、その青木繁の没後百年。知恵の環館で保存されている福田たね資料の中には、青木繁との思い出を追憶として描いているスケッチがいくつか残されています。それらのスケッチを通じて、青木繁と福田の関わりなどについて紹介します（5回連載予定）。

## しまたかしの 芳賀の自然 43



### ヒメアカタテハ

チョウ目タテハ科

写真提供=芳賀町自然に親しむ会 撮影場所:町内

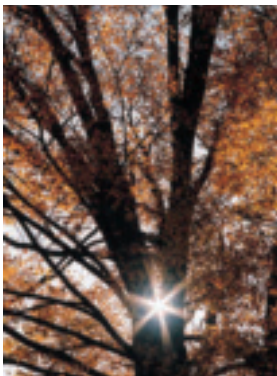
分布=北海道～九州  
生息地=山地～平地・人家付近  
時期=5～11月(成虫で越冬)  
発生=3～4回/年  
食性=キク科のゴボウなど(幼虫)  
吸蜜=各種の草花  
大きさ=開帳45～50mm(羽を広げた最大値)  
特徴=アカタテハに似ているが小型で、後羽の表面は橙色が強く、黒い斑紋が異なる。

## 編集後記 ● 広報はが11月号

□日に日に涼しくなって、秋の深まりを感じますね。

□今年は無事に町民大運動会が開催できました！天気もよく皆さんが楽しんでる姿を撮ることができ、表紙にも載せることができました。

また大運動会の様子は、芳賀チャンネルで前編・後編にわけ、2週にわたり放送されます。皆さんお楽しみください。 (K)



▲祖母井

◎編集 芳賀町広報広聴委員会

☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp

◎発行 芳賀町企画課

栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地

◎芳賀町ホームページアドレス

http://www.town.haga.tochigi.jp

④芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
ESPA：環境保護印刷推進協議会  
http://www.espa.com